令和３年(2021 年)度　第２回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 記録

【日　時】　10 月 16 日（土）10：00～12：00
【場　所】　大阪府立西成高等学校 多目的室Ａ
【出席者】　（会長）西田芳正委員、（副会長）高見一夫委員、
緋田隆平委員、榎井縁委員、田中俊英委員、寺嶋公典委員、堂上勝己委員、山下親善委員
【内　容】　１．校長挨拶
２．議事
(1) 現状について
① 各学年の様子及び人権教育について　／　② 進路状況について
(2) 本校の今後について

【議事について学校からの説明】

○ １年では人権学習としてヤングケアラーを取り上げた。府立高校では初ではないか。アンケートでは、全国平均 4%のところ（高２）、本校では 10%（高１）くらいが当てはまると答えている。学校で学ぶことが高校生としては当たり前のこと。

○ ２年では、前半にコロナ休校が続き気持ちが疲れた生徒もいたが、現在は落ち着いている。心優しく周りのことを見られる生徒が増え、頑張ってやっている。１学期は外国人の人権、２学期には部落差別を考えた。なぜ差別をするのかをグループワークで考え、付せんで書いてまとめた（成果物の提示）。エンパワメント学習発表会につなげていく。

○ ３年及び進路について。コロナの影響で、２年でのインターンシップの中止、３年１学期での就職面接指導が十分にできなかった。就職解禁直前の休校もあり、心配な生徒は個別に呼んで対応した。指導が不十分という思いの中スタートしたが、就職試験の後、生徒は自信ありげに帰ってきた。多くの内定ももらえた。（一次内定率 80%程度）　現在は二次の試験に頑張っている。文化祭では各クラス映像作品に取り組んでいる。

○ 今後の本校として、府教委のモデル校に向けて、思い切った改革をして、組織改編も含めて検討中。「多様な生徒」をどう社会へ送り出すか／高校として魅力ある学びの、２通りの改革を行う。モデル校であるが、モデルにならない（他校ではできない）Only One の学校をめざす。

○ 現在在籍している生徒には、不登校の原因としてネグレクト（学校へ送り出してもらえない）・子育て文化の違い（外国では幼い弟妹の世話は当たり前）・いじめ（虐待・服が汚れている）と、成績不振の原因として認知されない知的障がい・学習言語の未確立　による問題がある。こういう問題がなくなればエンパワメントスクールとしての役目を終える。その他の特徴的な取組みを、特例校（文科レベル）に準じる扱いができないか。学校の固定概念を払拭して、すべての生徒の Well-Being を。

【各委員からの主な意見等】

○ ヤングケアラーについて。その定義をしっかり位置づけないと、現状を親（特に若い親）のせいにしてしまうことがある。言葉に振り回されず、今までの取り組みがあるので、地域に協力するプラットフォームをつくり、その中に学校がどういうポジションで入るかが大切である。「こどもの貧困」ということばで広げられているのと同じで、少し胡散臭く感じる。自分の状況をどう受け止めどう生きていくか。また、困り感を持って行ける、サポートするところを紹介することで、西成の強みになる。

⇒ 言葉に振り回されず、学校としてどう向き合っていくか。クラスに必ず該当の生徒がいる前提での教材つくりは難しかった。生徒の実態を見て、個人のせいにせず、社会全体を見ていく。学校に福祉の窓口があれば良いのかも。

○ 卒業生、地域の中で頑張っている。とても元気よく、良い印象。着実に下積みをしているのはいいこと。メンター制度を行い、漢字ドリルなどをさせて報告書を書けるようになった。モチベーションのアップにもつながっている。

○ 定着支援について。今年度は調子良かったが、９月末でやめる生徒が増加している。4,5 月に体調を崩す人が多い。環境の変化について行けない。でも本人は「調子良い」と思っていることもある。アンケート調査を行っているが、外部との連携や学校でフォローができれば良い。

⇒ 以前に比べるとできるようになってきている。就職だけでなく、進学でもやめたことを学校に言えないこともある。

○ 本校の今後について、一人ひとりが自己肯定できる学校であってほしい。勉強やスポーツだけでなく、「ここ（学校）にいていいんだ」という青春、「人が人である」ということである。

⇒ ２通りの改革を考えている。「多様な生徒をどう卒業させていくか（府教委のモデル校として)」「高校として魅力のある学びの提供」 モデル校と言われるが、ONLY ONE の取り組みであり、他所ではできないことなんだろう。

○ 外国にルーツのある生徒について、専門的に丁寧な対応が欲しい。「ヤングケアラー」と同じで、親の通訳や下の子の面倒を見ている。学習言語と母語とはダブルリミテッドではなく二つとも成長過程である。学習言語の手立てを考えてほしい（理解が難しいのは障がいなのか言語の問題なのか)。「障がい」の認識も国によって様々である。

○ 軽度の知的障がいかと思っていた生徒が実は言語の問題だったことがある。第一言語がわからぬまま進んできたのでは。第一言語のない生徒のしんどさも分かって欲しい。

○ 働き方改革と生産性について。SDGs の人権など、世の中は変わってきた。労働生産性はアップしている。生徒が社会出た時に困惑しそう。いろんなスキルが必要となってくる。

○ 西成の町づくりなど、市民活動など幅広く学んでいったらどうか。「社会活動部」など。

⇒ 学びのフックを増やして、引っかかりやすくし、おもしろいなと思って深みに入れるようにしていく。

○ ベースに今までの取り組みがあるので、この看板は魅力的である。

【今後の予定】

次回（第３回） 1 月 22 日（土） 10:00～12:00